

整理番号	ネジトル 355ml × 10 × 2 / CS	作成日	2006年11月1日
3414-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年1月29日

Ver. 11.05

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	ネジトル 355ml × 10 × 2 / CS
製品コード	3414
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町 1 - 1
担当部門	技術開発部
担当者	平沢 肇
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	自動車、自転車、機械部品等の金属部の防錆、潤滑
作成日	2006年11月1日
改正日	2016年1月29日
整理番号	3414-02

2. 危険有害性の要約

GHS分類

エアゾール	区分 1
引火性液体	区分 4
生殖毒性	区分 2

※記載のないものは区分外、分類対象外または分類出来ない

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

極めて可燃性／引火性の高いエアゾール
 高压容器: 熱すると破裂のおそれ
 可燃性液体
 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
 授乳期の子に害を及ぼすおそれ

整理番号	ネジトル 355ml × 10 × 2/CS	作成日	2006年11月1日
3414-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年1月29日

Ver. 11.05

3. 組成、成分情報

化学物質 ・ 混合物の区別

・ 混合物

成分名/化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
合成油	10-20	非公開	非公開
有機モリブデン	1%未満	非公開	非公開
2, 6-ジ-tert-ブチル-4-クレゾール	1%未満	128-37-0	(3)-540 (9)-1805
イソパラフィン	70-80	68551-20-2	(2)-10
二酸化炭素	1-5	124-38-9	(1)-169

PRTR法報告物質

非該当 該当物質は含有するが、1%未満。

毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有しない

労働安全衛生法

通知物質： 法第57条の2、施行令18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物質

制令番号 物質名	含有量
262 2, 6-ジ-tert-ブチル-4-クレゾール	1%未満

有機溶剤中毒予防規則

非該当 該当物質は含有しない。

4. 応急処置

大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・必要に応じて、医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着したところをよく洗うこと。
- ・気分が悪くなった場合、外観に変化が見られたり、痛みがある場合は医師の診断を受けること。

目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・洗浄後、医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。

整理番号	ネジトル 355ml × 10 × 2/CS	作成日	2006年11月1日
3414-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年1月29日

Ver. 11.05

最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

応急措置をする者の保護

- ・特になし

医師に対する特別注意事項

- ・特になし

5. 火災時の措置

消火剤

- ・粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂

使ってはならない消火剤

- ・水を消火に用いてはならない。
- ・冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。

火災時の特有の危険有害性

- ・燃焼ガスには、一酸化炭素等の他、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。
- ・当該製品は着火後爆発の危険性があるため、直ちに避難する。

特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
- ・容器が高温で破裂する恐れがあるので消火活動には十分距離をとる。

消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

環境に対する注意事項

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

整理番号	ネジトル 355ml × 10 × 2/CS	作成日	2006年11月1日
3414-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年1月29日

Ver. 11.05

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収、中和

- ・少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止法

- ・漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
- ・付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する
- ・火花を発生しない安全な用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・妊娠中、授乳期中は接触を避けること。
- ・使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。
- ・裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。
- ・熱・火花・裸火・高温のもののような着火源から遠ざけること。
- ・容器を接地(アース)をすること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・火花を発生しない工具を使用すること。
- ・防爆型の電気機器(換気装置、照明機器等)を使用すること。
- ・規定時間以上噴射しないこと
- ・火気を使用している室内で使用しないこと
- ・漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。
- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・人体に向かって噴射しないこと、また噴射気体を直接吸入しないこと
- ・眼、皮膚、または衣類に付けないこと。
- ・取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。
- ・取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。
- ・取り扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
- ・涼しい所、換気の良い場所で保管すること。
- ・湿気の多い所、水周りなど容器が腐食しやすい場所におかないこと
- ・熱/火花/裸火/高温のもののような着火原から遠ざけること。
- ・長期間の保管を避ける。

整理番号	ネジトル 355ml × 10 × 2/CS	作成日	2006年11月1日
3414-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年1月29日

Ver. 11.05

安全な容器包装材料

- ・ 特になし

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・ 蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
- ・ 屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。
- ・ 労働安全衛生法（有機溶剤中毒予防規則）に沿った設備を設置する。
- ・ 屋内は全体に換気する。換気の悪い場所及び蒸気が発生の多い場所には局所排気装置を設ける。

記載の無いもの、また「-」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名／化学名	管理濃度	許容濃度
2, 6-ジ-tert-ブチル-4-クレゾール	-	TWA 2mg/m ³ (IFV)
二酸化炭素	-	日本産衛学会 5000ppm 9000mg/m ³ (2009) ACGIH TWA 5000ppm STEL30000ppm (2009)

保護具

呼吸器の保護具

- ・ 保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

手の保護具

- ・ 保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

目の保護具

- ・ 保護眼鏡（普通眼鏡型）、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

皮膚及び身体の保護具

- ・ 保護衣、保護前掛け等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 青色液体
臭い	: 溶剤臭
pH	: データなし
融点/凝固点	: データなし
引火点	: 90°C
自然発火温度(発火点)	: データなし
燃焼性(固体、気体)	: データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
比重	: 0.82
溶解性	: 水に不溶
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし

整理番号	ネジトル 355ml × 10 × 2/CS	作成日	2006年11月1日
3414-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年1月29日

Ver. 11.05

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

- ・ 通常の取扱いにおいては安定である。

危険有害反応性の可能性

- ・ 強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発をもたらす。

避けるべき条件

- ・ 加熱・熱源・裸火
- ・ 強酸化剤との接触を避ける。

混触危険性物質

- ・ 強酸化剤(引火性物質のため、強酸化剤との接触を防ぐこと。)

危険有害な分解生成物

- ・ 特になし

その他

- ・ 特になし

11. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ 2, 6-ジ-tert-ブチル-4-クレゾール

《急性毒性》

経口：ラット LD50=890 mg/kg

マウス LD50=650 mg/kg 1

経皮：経皮 ラット LD50=2000 mg/kg

《皮膚腐食性/刺激性》

ウサギに閉塞塗布して軽度の刺激、ウサギの試験で軽度の刺激BHT スワックス, 精工化学株式会社, 9071-05, '09. 10. 1, 6/9

の記載があり、ヒトに軽度の刺激があったの記載がある。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

ウサギの試験で結膜に軽度の炎症がみられ、72 時間後には回復刺激性したの記載がある。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性：モルモットのアレルギー性ショック試験でアナフラキシ皮膚感作性 は見られなかったとの記載がある。

皮膚感作性モルモットの試験では陰性の報告があるが、ヒトで感作性が認められたとの記載がある。

《発がん性》

ACGIH の分類がA4、IARC がグループ3 に分類されている。

《生殖細胞変異原性》

in vivo 試験であるマウスの相互転座試験、マウスの優性致死試験、マウスの特定座位試験、マウスの小核試験、マウス及びラットでの染色体異常試験のいずれも陰性との記載がある。

《生殖毒性》

混餌投与の2 世代試験でF0 の高投与群に体重増加と腎臓に影響が、F1 に体重抑制が見られた、混餌投与の3 世代試験で生殖、発生毒性は認められなかった、妊娠ラットへの投与で生殖毒性は認められなかった報告が2 件、1 件ある。また長期投与試験で仔の無眼球症が1 例6)、長期投与試験で仔の小眼球症が3 例/30腹で見られたの報告があるが、無眼球症が無いとい報告があり、小眼球症の3 例の分布が不明であるとしてIARC ではいずれも不十分として採用していない。体重増加抑制は高投与群においてであり、一般毒性によるものと思われる。

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

4 g 摂取した女性で、胃痙攣、倦怠感、嘔吐、疲労感、精神障害(単回曝露)及び短期間の意識喪失がみられた。また、紅花油に溶解させた80 g を摂取した女性で神経症状がみられの記載がある。

整理番号	ネジトル 355ml × 10 × 2/CS	作成日	2006年11月1日
3414-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年1月29日

Ver. 11.05

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

ヒトについての報告は無かった。マウスに摂餌投与した試験にお
(反復曝露)いて、区分2 のガイダンス値内の投与量で肺の鬱血、腫大、肺胞上
皮細胞の壊死、変性が認められた2)、ラットの経口投与試験におい
て、区分2 のガイダンス値内の投与量で肝臓の相対重量の増加、肝
臓の門脈周囲の壊死、肝細胞腫大が見られた3)、ラットの摂餌投与
試験において区分2 のガイダンス値内で肝臓の腫大、小葉中心性の
肝細胞壊死、グルタチオンの枯渇、トランスアミナーゼ活性の増加、
酵素誘導、リン脂質及びコレステロールの増加がみられ、甲状腺のヨード取り込みの増加に伴う腫大が
認められたの記載がある。

《吸引力呼吸器有害性》

データなし

・ 二酸化炭素

《急性毒性》

吸入(ガス):ラットのLC50値 470000 ppm/0.5h = 167857 ppm/4h[PATY (5th, 2001)]に基づき、区分外
とした

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

露)ヒトへの影響として二酸化炭素は高濃度のばく露では呼吸中枢を刺激し、また、弱い麻酔作用が認
められると記述されている(ACGIH (2001))ことから区分3(麻酔作用)とした。

1 2. 環境影響情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、
あるいはデータなしの成分

・ 2, 6-ジ-tert-ブチル-4-クレゾール

《水生環境有害性》(急性)

魚類：ヒメダカ 96 時間 LC50 = 1.1 mg/L 甲殻類：オオミジンコ48時間 EC50=0.84mg/L 藻類：セレナ
ストラム 72 時間 ErC50 > 7.0 mg/L

《水性環境有害性》(慢性)

難分解性(BOD 測定による生分解性は4.5%)7

オゾン層への有害性： データなし

1 3. 廃棄上の注意

・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制：

国連分類

クラス2.1 引火性ガス

国連番号

1950 エアゾール類

容器等級： 該当しない

海洋汚染物質： 非該当

国内規制：

容器イエローラベル

126 気体-圧縮又は液化(冷気気体を含む)

積載方法

運搬時の積み重ね高さは3m以下

混載禁止

第1類及び第7類の危険物

高圧ガス

整理番号	ネジトル 355ml × 10 × 2/CS	作成日	2006年11月1日
3414-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年1月29日

Ver. 11.05

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・「火気厳禁」
- ・容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・荷くずれ防止を確実にを行う。
- ・該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・直射日光を避ける。
- ・水漏れ厳禁。
- ・横積み厳禁。
- ・夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

15. 適用法令

火薬類取締法：

対象外

高圧ガス保安法：

エアゾールの為非該当

消防法：（ ）内は、指定数量

第四類第3石油類非水溶性危険等級Ⅲ（2，000L）

毒物及び劇物取締法（毒劇物取締法）：

非該当（該当物質は含有しない、詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

労働安全衛生法：

通知対象物質を含有する。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

労働安全衛生法（有機溶剤中毒予防規則）：

非該当 該当成分を含有しない。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

労働安全衛生法（危険物）：

可燃性のガス

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法（PRTR法）：

非該当 該当物質は含有するが、1%未満。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

16. その他の情報（参考文献等）

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
JIS Z7253:2012

GHS分類結果データベース（独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ）

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

JACA（日本オートケミカル工業会）編集：化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版（日本オートケミカル工業会）

危険物船舶運送及び貯蔵規則（海文堂）

※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者へ提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。